

令和 7 年度

8 月定例教育委員会

会 議 録

(公 開)

令和 7 年 8 月 2 1 日

## 1 開 会 14時00分

教育長から、「議題第15号」及び「その他②」については、議会報告が予定されること、「議題第16号」については人事に関すること、「議題第17号」については、後日公開されることから、非公開での審議が適当である旨の提案がなされ、出席者全員で異議なく決定した。

## 2 前回の会議録の承認

教育長から、令和7年度7月定例教育委員会の公開部分の会議録の承認について諮られ、出席者全員で異議なく承認した。

## 3 議 事

### ◎ その他

令和7年度全国学力・学習状況調査の本県の結果について

義務教育課長

(資料に沿って説明)

説明は以上です。

教育長

この件に関して、御意見、御質問等ありませんか。

松山竜也委員

調査の結果についてですが、文部科学省が7月に公表した全国の平均正答数や正答率と、今回の提示資料の数字を比較すると、中学校数学の平均正答数や小・中学校全ての教科の平均正答率に若干違いがあるように思いますが、いかがでしょうか。

義務教育課長

今回お示ししているのは、公立学校の内容であり、文部科学省が示すものは、私立学校や国立学校が入っている状況です。

柳委員

考察のところで、各教科でチームを編成し教科指導の在り方を研究して県内全体に広めているとありますが、具体的にどのようなチームを編成して取り組んでいるのか教えていただけますか。

義務教育課長

現在全ての教科において、県の指導主事、指導教諭や教諭を含めた市町村立学校の先生方でチームを編成しております。指導教諭に

については全員対象となっており、各チームで年間５回ほど勉強会を行い、今回の調査結果やこれまでの取組から見られる課題を基にどのような授業を構築すべきか、どうすれば主体的・対話的で深い学びの視点で授業に臨めるかを研究しております。すでに研修会を行った教科もありますが、秋を目処に指導教諭の授業を提案することで、県内全域の先生方が参加できるような研修会を実施する予定でございます。

### 柳委員

調査を見ると、自己肯定感や地域への貢献など、子供たちが将来生きていく上でしっかり身に付けてほしい力が調査結果に表れてきていることは評価できます。一方で、調査結果が示す知識や思考力・判断力・表現力などについては、なかなか厳しいものであると思います。県はひなたの学びを進めていますが、市町村や学校も工夫しながら取り組んでおりますので、その取組は大切にしていきたいと思います。そのような中で、子供たちが全国学力・学習状況調査をどのように捉えているのかが気になりました。全国学力・学習状況調査は小学校６年、中学校３年で年に１回実施されますが、子供たちにとっては、どのような力を身に付けないといけないかを試すことができるすごくよい機会であると思います。学校では、全国学力・学習状況調査について、その意義を丁寧に子供たちに説明していただいているとは思いますが、子供たちが本調査に主体的に臨むことで、自分の力を試すよい機会と捉え、無回答についてもできるだけ埋めようとする意欲につながっていくのではないかと思います。

### 義務教育課長

子供たち自身が学びたいと思う授業にしていく必要があると考えます。また、子供たち自身が自分の学びについて、どのような学びが必要なのか、主体的な学習者になるためにはどうすればよいかについて、私たち県教委も含めて学校の先生方がしっかり示していく必要があると思います。本調査を受ける前には、そのような話をさせていただいたり、終わった後には、自分の学びを見つめたりする子供たちになるように、私たちも発信していきたいと考えます。

### 松山郁子委員

調査結果について、小学校も中学校も算数・数学が全国との差が大きいと思いますが、その原因の検討とその対策について、算数・数学で工夫されている点があれば教えてください。

### **義務教育課長**

各教科でチームを編成している中で、本調査の分析もいち早く状況を把握し、勉強会の中でどうすれば理解が深まるのか、授業が変わることによって子供たちがどう変容するのかを中心に検討しております。任意の団体では、小学校と中学校の教諭が集まる算数・数学の研究会もありますので、そのような取組と連携しながら議論を深め、授業実践に生かしていこうと考えているところです。

### **松山郁子委員**

受験者が異なるため比較はできないとは思いますが、今回の結果は、前回、前々回も同じような傾向にあったのでしょうか。

### **義務教育課長**

傾向としては、国語と比較すると、算数・数学は同じような傾向が何年も続いております。去年と比べても下回っている状況であり、中学校の数学については全国的に下がっている傾向にあります。算数・数学、また理科教育については、力を入れる必要があるという文部科学省の分析もいただいております。

### **木村委員**

本県での昨年の調査結果と比較した場合、いずれもスコアは下がっている状況については、難易度も実施年度によって違いますので、単純に比較はできないと思います。そのような中で、学校現場で小学校の授業に入ってみると、学びに向かう姿ができていない子供たちがいて、理由を聞いても夜更かしや朝食をとっていない状況もあり、本当に分からないまま45分間座っているのだろうなと感じることがあります。高学年の子供でも、九九が分からなかったり基礎学力が全く定着していなかったりする現状を強く感じます。学びに向かう姿というのは、家庭での生活対応なども関連するので、学校の先生方ができることは限られるとは思いますが、そういう部分に目を向ける必要性、ちょっと立ち止まって基礎に戻るという時間も必要ではないかと感じます。また、算数のノートですが、子供たちが書きやすいように、括弧があってその部分を埋めたり、教科書に問題が記載されていたりするなど、子供たちが工夫してノートを取るということが少なくなっているように感じています。子供たちが工夫してノートにまとめていくということも、大切な力の一つではないかと感じております。

### **義務教育課長**

子供たちがつまづいているところではなかなか前に進めなかったり、授業についていけなかったりする現実も認識しているところでもあります。そのような子供たちのために、少人数指導や専科教員の配置によって、個々の子供たちに行き届く学びが提供できるように、そして授業が充実するように取り組み、今後は子供たちが立ち止まって学びを確認するということも進めていきたいと思います。また、板書とノートのリンクについては、よく話題になるところです。ICTが普及してデジタル化になると記録に残らないということではありますが、板書を端末で撮影して子供たちに送付し、改めてもう一度ノートにまとめさせるという取組があると聞いております。穴埋めだけでなく、記録をさせながら学習を理解させていくということも、今後の研究の中で深め、学校に広げていければと思うところでもあります。

### **木村委員**

授業に入って同じ子供を経年で見ると、去年は座って授業を受けていなかった子供が今年は座って授業を受けているということもあります。本調査の結果を受けて、先生方の研修もいろいろあるとは思いますが、先生自身も研修を受けるという一方的なものではなく、先生たち自身が主体的に学び合えるような研修であれば、先生方も受け身ではなくなり、授業改善につながっていくのではないかと思います。

### **義務教育課長**

先生方自身が主体的に学べるように、研修センターの研修でも先生方が主体的な学習者になるようなワークショップ型等、主体的に研修に参加できるように工夫しております。私たちもその視点を大切に事業構築しながら、学校の授業も先生方が意識を変え、授業改善していけるように取り組んでいきたいと思います。

### **森山委員**

児童生徒質問調査の結果ですが、自己肯定感や社会に対する意識など、全国平均よりも高くなっていることについて、なぜこのような結果が出たのかを教えてください。

### **義務教育課長**

この自己肯定感や自己有用感については、年々上がっている傾向にあります。これは、特別活動や学級会活動、道徳教育や総合的な

学習の時間などにおいて、子供たちが主体的に様々なことを考えており、例えば地域のこと、ふるさとのこと、自分のことを考えていくという時間が、ひなたの学びを打ち出して以降も、さらにこれまで以上に学校の先生方が意識して取り組んできた成果ではないかと分析しているところです。

### 森山委員

私はこの結果がすごくよいことだと感じておりまして、本県の教育の柱になることだと思いますので、ぜひ今後もより一層伸ばせるような方向性を見出していいただければと思います。

### 柳委員

本県の ICT の情報活用力については全国的に低かったのですが、コロナ禍を契機として現在は非常に高くなっており、県としても努力していることが窺えます。ICT を活用した授業は非常に大切で、子供たちも使いこなしているのですが、ICT はあくまでも一つの手段と考えます。先日、1 年生の日常の授業を参観した際に、子供たちがこの時間に何を学んだのか分からない時がありました。ノートは、今日学んだことが見れば分かり、その上で自分ができるようになったことや子供たちの良さなどが文字として残ります。端末にも記録は残っていくとは思いますが、この使い分けに関し、これまでも協議はされているとは思いますが、効果的な活用の仕方について改めて検討していただきたいと考えます。授業を研究するのであれば、紙や ICT など、両方のよさをどのように生かしていくのか、その活用が子供たちの知識や技能の向上にどうつながるのかを考えていただきたいと思います。一方で、今の授業では ICT を活用しないといけないとする風潮があるのではないかと危惧しておりますので、ICT の活用が苦手な先生方にはぜひ相談できるような手立てをとっていただきたいと思います。授業が終わった際には、子供たち自身が分かったとか、友達と学んでよかったということが残る授業であってほしいと思います。

### 義務教育課長

委員のおっしゃられたとおり、私たちも ICT を活用することが目的となるような授業を求めているわけではございません。GIGA スクール構想が出た際には、アナログとデジタルのベストミックスという言葉を使っておりました。私たち義務教育課が3年間 ICT モデル校を指定して取り組んだモデル事業においては、初年度はとにかく使ってみようということからはじめ、次第に効率的、効果的に使うためには板書やノートも重要であり、やはり使い分けていくとい

うことが必要だと考えております。先ほど申し上げましたチームにおいても話題になっておりますので、各学校にも発信しながら、子供たち自身が、分からないから次は家で勉強しようとか、次の授業ではもっと学ぼうなどと変容する授業改善に取り組んでいきたいと思っております。

## 教育長

この結果が出た際には、学力は何で測るのかということを各課長に質問したところです。調査の結果なのか、それ以外に要素はあるのかといことを、全ての課長が考えるべきと捉えております。県の教育振興基本計画においても、学力向上をあげておりますので、しっかり学力は向上すべきであります。その学力向上について、何をもって測るのかと考えた時、やはり全国の調査があってその結果が伸びていないとなれば、それをしっかり考えるべきであると捉えております。今回の資料では、(1)が教科の調査結果で、(2)が質問の結果ですが、去年までは逆でしたので、私から教科の調査結果を先に出して分析するようにしたところです。さらに、担当に聞いたところ無回答が多いということを知りましたので、そこはしっかり考えるべきではないかと考えた次第です。森山委員からひなたの学びについて非常に高い評価をいただきましたが、そのひなたの学びが実際の調査結果に結びついていないのではないかと。また、松山委員からも算数・数学の話がありましたが、数学はここ数十年、宮崎は低い結果であることも聞いております。やはり、授業の在り方や学力向上の取組については、反省すべきところはしっかり反省して今後取り組んでいく必要があると思っておりますので、全課長が集まる場において学力向上について議論したところです。

## 教育長

よろしいですか。

それでは、この件については、これで終わります。

## ◎ 次回会議の日程等について

## 教育長

それでは、次回定例会は、9月25日、木曜日、14時からとなっておりますのでよろしくお願いします。

これより後、会議冒頭の決議により非公開とします。

傍聴者の方は、御退席をお願いします。

(14:36終了)